

埼玉県

越谷市

国際化へ向けて一歩ずつ...



越谷市秘書室秘書課

「水と緑と太陽に
恵まれた ふれあい豊かな
自立都市」——越谷市——

越谷市は、埼

玉県の東南部に
位置し、市内には

多くの河川や用
水が流れ、古くか

ら自然に恵まれ
た「水郷こしが

や」と呼ばれてき
ました。江戸時代

になると、日光街
道の宿場町とし

て栄えましたが、その後、東武鉄道伊勢崎
線の開通や地下鉄日比谷線、半蔵門線への

相互乗入れが始まり、東京都心から二五km
圏という地理的環境でもあることから、現

在では、人口は三万人を超え、埼玉県南東
部の中核都市として発展を続けています。

その一方で、現在でも当時の水郷や宿場町の
面影を残す光景が市内各所に残されてい

て、市の中心部でも当時をしのぶことができ
ます。二〇〇八年は、市制施行五〇周年の節

目の年に当たり、さまざまな記念事業が企
画されています。三月には、全国的にもめづ

らしい治水と土地区画整理事業が一体となっ
た新しいまちづくり「越谷レイクタウン」の

まち開きが行われ、越谷市は未来へ向けて
さらに飛躍を続けています。



↑水郷こしがや

国際化へ向けた取組み

越谷市の外国人登録者数は、今年一月末
現在で四二五八人となっており、過去一〇年
間では、総人口が約五%の伸びに対して、外
国人登録者数は、一九九九年の二八〇九人と
比較して約五二%増加しています。国籍別
に見ると、多い順に中国、韓国・朝鮮、フィ



↑越谷レイクタウン完成予想図

リピン、ブラ
ジル、タイの
順で、今後も
増加すること
が予想されま
す。在住外国
人への支援
は、主に市民
活動団体の
方々を中心と
なって、日本
語教室の開催
など、各種の

活動をしていただいています。

市では、二〇〇六年度から、通訳翻訳ボラ
ンティアを募集して各言語別に登録し、活
躍していただく制度を始めました。これは、
市が作成するパンフレット、申請書などの翻
訳や外国人への説明時に担当部署からの依
頼により、ボランティアを派遣するもので
す。同時に、興味のある方には、多文化共生
推進員としても登録していただき、自国の

文化の紹介や外国人の視点に立った日本の生活など、市民の皆さまの要望により、地区へ派遣を行っています。今年の三月には、ボランティアのご協力により、一六六ページに及ぶ「市民ガイドブック中国語版」を二〇〇六年度に作成した英語版に続いて発刊しました。そして、同時期に作成した「多言語版防災マップ」や外国語版の資料、ごみカレンダー、市内の国際化活動団体の一覧などをセットにして、外国人登録窓口で配布しています。また、毎月一回、市で発行している広報紙を英語・フィリピン語に翻訳、編集、印刷して、鉄道の駅や各施設で配布しています。これは、国際交流員（CIR）と翻訳ボランティアが協力して行っています。

このほか、在住外国人から、意見を聞く「お話し会」や外国人と日本人、そして外国人同士も知り合いになつてもらおうと、地元大学や国際化活動団体と協働して「多文化の輪」という交流イベントを開催しました。さらに、近隣の五市一町で国際化を担当している職員が定期的に集まり、多文化共生社会の形成を広域的に共通の課題としてとらえ、在住外国人施策の現状、問題点、国際化担当職員としての悩みなども話し合い、広域で人やものを共有し活用できないかと、各地域で活動している国際化活動団体にも協力を仰いで「みんなで考えよう」を開催し、災害時の外国人支援や外国人相談についての講演会・交流会を行いました。

姉妹都市交流



↑キャンベルタウン青少年使節団

越谷市は、一九八四年にオーストラリア・ニューサウスウェールズ州のキャンベルタウン市と姉妹都市提携を締結しました。来年には、二五周年を迎えるこの姉妹都市交流は、多くの市民同士の積極的な交流活動に支えられています。主な事業内容としては、毎年二回ずつ、青少年使節団一五人の相互派遣・受入れを行っています。この事業は、越谷市国際交流協会・越谷市・越谷市教育委員会の共催で実施していますが、両市ともホストファミリーや学校訪問などの施設案内がボランティアの手で行われています。さらに、両市役所間では一年おきに職員を三カ月の期間、相互の市役所に派遣して、それぞれの行政システムについて研修をする人事交流員事業を行っています。この姉妹都市交流は、活動実績が評価され、二〇〇二年には豪日交流基金から感謝状が贈呈されました。

国際化は、職員の意識から

越谷市では、外国人登録者数の増加に伴

い、市役所の窓口や、各施設にも外国人が訪れる機会も増えてきています。同時に、われわれ職員も、外国人への対応をしたり、外国語の書類を取り扱う機会も増えてきていますが、普段から外国人に接する機会が少なく、対応にためらうことも多いようです。日本語が少し話せる在住外国人も多いので、職員には、「やさしい日本語」研修や新採用職員研修においても国際化の意識を持つてもらおうと職員への啓発を始めました。

これからは、外国人にとっても魅力的に住みやすい越谷市になるような多文化共生社会の実現に向けて、姉妹都市交流を含めた広い意味での国際化を目指していく必要があります。越谷市の公式ホームページも自動翻訳システムを導入して、多言語での情報発信を開始しましたが、越谷市では、在住外国人に関する制度が確立していない事項もまだまだ多いのが現状です。市役所の国際化に関しては、組織を超えた横断的な取り組みが重要ですので、一步一步、職員の意識も高めていきたいと考えています。



↑みんなで取り組む多文化共生

佐賀県

たけ

お

し

武雄市



武雄市企画課

ぬくもりのある

『ユニバーサルデザインのまち』を目指して

武雄市は どがんとこ!?

武雄市は、佐賀県の西南部にある人口約五万二〇〇〇人のいで湯と陶芸のまちで、二〇〇六年三月一日に旧武雄市、山内町、北方町の一市二町が合併し誕生しました。

雄大な山々に囲まれ自然豊かで、二二〇〇年の歴史を誇る温泉郷としても広く知られています。

最近では、「佐賀のがばいばあちゃん」ドラマロケ誘致や、ハーブの一種であるレモンガラスのブランド化など全国への情報発信に努めています。

姉妹都市提携のあゆみ

本市の姉妹都市は、旧山内町での姉妹都市を引き継ぎ、アメリカ・セバスト

ポール市との交流を行っています。

セバストポール市は、カリフォルニア州中部の小さな市で、サンフランシスコの北約八〇kmに位置する農業（リンゴ・ブドウ）、家畜（馬）、ワインの生産が盛んな人口七八〇〇〇人の小さなまちです。

今から約二四年前、『地球市民の会』と交流のあったセバストポール市の方が佐賀県を訪問された際に、雰囲気似ている山内町を訪れたのがきっかけで、一九八五年三月二



↑締結調印式

七日、姉妹都市締結となりました。

一九九三年三月には、ブルックハイブ中学校と山内中学校の姉妹校提携を結び、同校の中学生を中心に約二週間のホームステイを一年おきに相互に行っています。

一九八五年の締結当時、行政を窓口としていましたが、一九九六年一月、町内の国際交流に関心を持つ個人や各種団体により、『山内町国際交流促進協議会』が設立されました。その後、合併の際に『やまうちワールドフレンズ協議会』と名称を変更し、現在までこの組織を中心に市民主体の交流が続けられております。（二〇〇八年三月現在、会員数約二二〇人）

小さなまちの大きな交流

一九八五年の姉妹都市提携以来約二三年間、それぞれのまちを訪れた人数は約二〇〇人を突破し、「おじいちゃんが行ったセバストポールに私も行ってみたい」と世代を超えての交流は歴史を刻み続けています。

セバストポールのまちを歩いていると、「Are you from Yamachi?」と聞かれ、「Yes」と答えると、そこから楽しく会話が弾みます。同様に、山内の方々も「アメリカ」と聞くと、「セバストポール市」が自然と浮かんでくるような、そんなうれしい現象があり、この交流も相互のまちに確実に根付いていることがうかがえます。

中学生が二週間もの間、親元を離れ体感

セバストホームステイ



するアメリカは想像以上に大変です。行きの飛行機の中で興奮気味だった生徒たちが、現地でホストファミリーと対面。行く前からメールや手紙のやりとりをし、やっと会うことのできたうれしさ、そしていきなり味わう日本語が通じない孤独感。みんなの困惑しきった表情に、引率者は「がんばれ！ここが踏ん張りどころ！」「とエールを送ります。楽しみにして来たアメリカなのに。いろいろな心配やちよつとした生活習慣の違いに体が慣れず、思わず泣き出してしまふ生徒。

でもそんな生徒たちも、ホームシックになつてしまった仲間を優しく気遣ってくれる仲間の存在、そして温かくハグしてくれるアメリカの家族に包まれることで、この二週間の体験がかけがえのないものになります。出発時と比べて、帰国時の生徒たちの表情は、言葉では言い表すことのできないほど「イイ顔」へと変化しています。心がたくましくなり、ひと回り大きくなった子どもたち



セバスト歓迎パーティー

ちに保護者の方も満悦で、国際交流のお世話をする者にとつてもうれしい瞬間です。一緒に旅をした仲間を想い、新しくできたアメリカの家族や友人に交流を誓い、送り出してくれた日本の家族に素直に感謝を伝える生徒たちに、心からの拍手を送ります。この交流を象徴するようなセバストポール市長の言葉、「友人同士は戦争なんかしません。自分たちのこの小さな交流が、『世界平和』という大きな交流へとつながることを切に願います」と。

在住外国人との交流

この協議会のもう一つの活動に在住外国人との交流があります。旧山内町にある企業に勤務されている約二〇人の中国人の方々を中心に交流されています。交流は年により異なりますが、もちつき、餃子づくり、視察研修、地元の子どもたちとのクリスマスパーティーなどです。

私たち大人は、つい言葉の壁を気にしてしまい、話しかけるのをためらってしましますが、子どもたちはひたすら話しかけていました。一方的に日本語を話す小学生と、それに相づちをうっている中国の方々の優しい笑顔がとても印象的でした。

また、会員の中には、自宅に招待し夕飯を囲みながら、同時に中国語と日本語の勉強にと積極的に交流



在住外国人との交流会



樋渡市長と握手を交すサラ市長

をされる方もおり、家族と離れて暮らす中国の方の「心の家族」となっています。協議会の活動が市全域に広がれば、市民がより異文化に触れる機会が増えたと期待しています。

おわりに

本市ではこの姉妹都市交流のほか、中国からの留学生を六〇年間にわたり受け入れている(財)清香奨学会の活動など、多くの活動がなされており市民が国際交流できる機会が増えてきました。

また、本市は観光地であることから日本人・外国人問わず、訪れた人に楽しく快適に過ごしてもらい、何度も訪れたいくなるようなまちにすることが重要と考えています。

このため、「武雄に生まれ育つてよかった、住んでよかった、訪れてよかった」といった元気な、ぬくもりのある、人がかかやく『ユニバーサルデザインのまち』を目指したいと思ひます。